

総務文教常任委員会
所管事務調査資料
(令和 7 年 1 月 2 9 日)

(事務調査)

- ② 全国学力・学習状況調査の概要、調査結果について

生涯学習課学校教育グループ

1 全国的な学力調査の意義・目的について

文部科学省が日本全国の小学6年生と中学3年生全員を対象に、学力と学習状況の調査を実施している。(2005年6月、政府は「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005」を閣議決定し、その中で「児童生徒の学力状況の把握・分析、これに基づく指導方法の改善・向上を図るため、全国的な学力調査の実施など適切な方策について、速やかに検討を進め、実施する」とした。小中学校は2007年から全数調査を開始(再開)した)

調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としている。(全国学力・学習状況調査に関する実施要領より)

すべての教育委員会、学校等が、全国的な学力に関する状況、教育条件の整備状況、児童生徒の学習環境や家庭における生活状況等を知り、その特徴や課題などを把握し、主体的に指導や学習の改善等につなげる機会を提供することとなる。これにより、各教員の指導方法の改善や各児童生徒の学習の改善につながることを期待されている。

また、全国的な学力調査の結果を有用な情報の一つとして提供することにより、教育委員会が教育施策の成果と課題を評価・検証することや、各学校が、学校評価において特色ある教育活動を適切に検証・改善する際に、具体的な指標に基づいて行うことができる。

2 学力調査の実施と分析・活用までの流れ

4月 学力調査の実施(第3もしくは第4火曜日)

実施後、各校において自校採点を行い、課題の見られるところの改善を行う。

8月 調査結果発表 家庭・児童生徒への個票の配付

9月 町HPに町分析の公開

10月 各校独自の分析・対応の方向性を町教育委員会へ提出

11月 町教育委員会による各校区ごとの同一集団の変容から重点的取組事項の確認

町教育研究所で取り組んでいる「小中一貫教育」、「ふるさと教育」、「授業づくり」等との関連の確認

12月 教育委員会において 次年度の教育施策、教育研究所等の方針に反映

させ、各学校においては、学校評価と照らし合わせ、次年度の学校経営方針や具体的な活動改善に活用する

3 学力調査の結果

義務教育の機会均等と水準の維持がなされているかを把握する目的で、厚真町、全道、全国との平均正答率の推移を比較する。

(1) 小学生

受検対象人数

(人)	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	47	30	31	45	30	37	37

・国語（分析：全道、全国とほぼ同等）

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	60	68	62	67	69	63	64.8
北海道（公立）	53	63	63	64	66	67	62.7
全国（公立）	54.7	63.8	64.7	65.6	67.2	67.7	64.0

・算数（分析：年によって変動もあるが、平均は、全道、全国とほぼ同等）

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	68	71	64	66	61	60	65.0
北海道（公立）	62	64	67	61	61	61	62.7
全国（公立）	63.5	66.6	70.2	63.2	62.5	63.4	64.9

・理科（分析：全道、全国よりも上回っている（3年毎、H30とR4に実施）

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	69			67			68.0
北海道（公立）	59			63			61.0
全国（公立）	60.3			63.3			61.8

※令和2年は、コロナ禍のため、実施されていない。

(2) 中学生

受検対象人数

(人)	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	34	27	47	27	41	30	34

・国語（分析：年によって変動もあるが、全道、全国よりも上回っている）

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	84	81	70	71	75	51	72.0
北海道（公立）	77	72	65	69	69	58	68.3
全国（公立）	76.1	72.8	64.6	69	69.8	58.1	68.4

・数学（分析：年によって変動もあるが、全道、全国よりも上回っている）

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	75	65	61	53	56	45	59.2
北海道（公立）	65	58	56	49	49	51	54.7
全国（公立）	66.1	59.8	57.2	51.4	51	52.5	56.3

・英語（分析：全道、全国よりも上回っている（3年毎、H31とR5に実施））

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町		59			46		52.5
北海道（公立）		54			44		49.0
全国（公立）		56			45.6		50.8

・理科（分析：全道、全国よりも上回っている（3年毎、H30とR4に実施））

	H30	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	78			53			65.5
北海道（公立）	67			49			58.0
全国（公立）	66.1			49.3			57.7

※令和2年は、コロナ禍のため、実施されていない。

(3) 同一集団の比較

小学6年生が、3年後、中学3年生になったときの学力調査の成績比較

・国語（分析：全道、全国よりも上回っている）

	H30	R3
厚真町	60	70
北海道（公立）	53	65
全国（公立）	54.7	64.6

・算数・数学（分析：全道、全国よりも上回っている）

	H30	R3
厚真町	68	61
北海道（公立）	62	56
全国（公立）	63.5	57.2

・国語（分析：全道、全国よりも上回っている）

	H31	R4
厚真町	68	71
北海道（公立）	63	69
全国（公立）	63.8	69

・算数・数学（分析：全道、全国よりも上回っている）

	H31	R4
厚真町	71	53
北海道（公立）	64	49
全国（公立）	66.6	51.4

・国語（分析：全道、全国よりも下回っている）

	R3	R6
厚真町	62	51
北海道（公立）	63	58
全国（公立）	64.7	58.1

- ・算数・数学（分析：全道、全国よりも下回っている）

	R3	R6
厚真町	64	45
北海道（公立）	67	51
全国（公立）	70.2	52.5

4 生活環境や学習環境に関する質問調査

（１）厚真町教育委員会が児童生徒の変容を見取るうえで重視している項目

- ・朝食を毎日食っている
- ・毎日同じくらいの時刻に寝る、寝る
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている
- ・学校の授業時間以外に、普段、１日１時間以上勉強する
- ・学校の授業時間以外に、普段、１日当たり１０分以上、読書する（R5まで）
- ・自分にはよいところがあると思う（自己肯定感）
- ・将来の夢や目標を持っている
- ・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある（ふるさとへの関わり）
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか（R6から）
- ・国語、算数・数学の勉強が好き
- ・理科の勉強が好き（R4、R6）
- ・英語の勉強が好き（H31、R3、R5）

（２）小学生

①「学校の授業時間以外に、普段、１日当たり１０分以上、読書する」

（分析：全道と同等。全国よりもやや低い R6はこの質問はなかった）

	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	70	51.7	62.2	46.7		57.7
北海道（公立）	63	57.6	57.1	58.1		59.0
全国（公立）	65.7	61.2	59.6	60		61.6

②「自分には良いところがある」

(分析：R6を除いて全道、全国を下回っている)

	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	76.7	70.9	68.9	76.6	83.9	75.4
北海道（公立）	78.9	72.6	76.4	81.1	83	78.4
全国（公立）	81.2	76.9	79.3	83.5	83.3	80.8

③「国語の勉強好き」

(分析：全道、全国を下回っている)

	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	56.7	51.6	60	60	56.4	56.9
北海道（公立）	63.6	58.7	59.7	62.1	61.9	61.2
全国（公立）	64.2	58.4	59.2	61.5	62	61.1

(3) 中学生

①「自分には良いところがある」

(分析：全道、全国を下回っているが、年によって変動ある)

	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	66.6	77.1	66.6	75	83.9	73.8
北海道（公立）	73.4	74.5	77.4	79.6	83	77.6
全国（公立）	74.1	76.2	78.5	80	83.3	78.4

②「理科の勉強好き」

(分析：全道と同等、全国よりも下回っている (R4 と R6 のみ))

	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町			51.8		77.4	64.6
北海道（公立）			64.7		64.5	64.6
全国（公立）			66.4		68.3	67.4

③「英語の勉強好き」

(分析：全道、全国よりも大きく上回っている (H31、R3、R5 のみ))

	H31	R3	R4	R5	R6	平均
厚真町	92.6	77.1		62.5		77.4
北海道（公立）	54.6	53.9		49.6		52.7
全国（公立）	56	56.7		51.9		54.9

5 分析・活用

厚真町の各学年における児童生徒数は、40人前後である。その調査対象の学年において、少数の突出した成績のものがいることで、平均が大きく上下することを踏まえて、数値を取り扱う必要がある。

「3 学力調査の結果」について、過去7年間の厚真町、全道、全国の正答率の平均を出したところ、すべての校種、教科で、全道、全国よりも同等か上回っていることが見られる。(理科の変化を見るため、H30まで広げて比較した。R2は感染症拡大のため実施されなかった。)

一方で、R3(小6)、R6(中3)(これらは同一集団である)の成績は、国語、算数・数学においても全道、全国よりも下回っている。このように本調査の趣旨を十分に踏まえ、町教委としても各学校と、児童生徒が学習面で苦手としている部分や、日頃の行動の実態を把握するとともに、指導助言を行った。

本町では、小・中学校とも2校ずつの4校を抱えている。仮にA小学校の成績が町全体の平均を超えているとなると、B小学校の成績は平均よりも低いということが容易にわかってしまい、競争をあおる結果につながりかねない。本調査は「教育委員会、学校等が広い視野に立って教育指導等の改善を図ることや独自に実施している教育施策の改善を行うことにより、義務教育の機会均等や一定以上の教育水準を確保する」ことがねらいであるため、両小学校、中学校をまとめた形で、町教育委員会のホームページに掲載することとしている。

町教育委員会としては、前述のR3(小6)、R6(中3)の集団をさらに校区ごとに分け分析した。A校区は中3にかけて成績が向上している。B校区は、小6時の平均との差が変わらない状況であった。このことから、B校区の小・中学校には、主に「・学校がチームとして子どもを支援する ・子どもを多角的・多面的に捉え指導を進める ・ICTを活用した授業改善を行い、子どもが学習課題を設定し、その学び方を調整する授業づくりを推進する ・厚真町における小中一貫教育を推進し、校区で9年間を見通した子どもの育成を目指し、児童生徒の情報や指導技術を共有する。」という観点で指導し校内体制の改善を促した。

「4 生活環境や学習環境に関する質問調査」における小学校、中学校の経年比較にもある、「ふるさとへの関わり」、「自己肯定感」、「将来の目標・夢」に関した項目を重要視している。本町では、令和2年度の町教育研究所設立準備中からふるさと教育をはじめ、令和3年度の教育研究所設立からめざす子ども像として「厚真の未来を語れる子」と定め、子どもの資質・能力の育成に力を入れている。「自分には良いところがある」という質問では、小学校、中学

校ともに6年間の平均は下回っているが、R6は全道、全国を上回った。「将来の夢や目標を持っている」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の項目では、令和4年度以降からは令和6年度にかけて上昇し、全道、全国と同等か、上回っている結果である。

この背景には、町教委ふるさと教育コーディネーターと各学校が連携して、地域の人的・物的資源を活用した教育活動が進んできたことが大きな要因であると思われる。児童生徒にとって体験的な活動を行ったり、自らのキャリア形成を考えさせる活動（職場体験、ふるさと教育発表含む）、町に提言したりする活動を行ってきたことがこれらの数値の向上につながっていると思われる。

5 今後の方向性

個人の学力の定着を図るとともに、年度ごとや同一集団の経年比較を通して、その学校が抱える課題を把握し、その後の教育活動に生かしていく。

また、生活環境や学習環境に関する質問調査での、「(国語などの教科)の学習が好き」という質問において、肯定的な回答をする割合がどうであるかにも注目することで、児童生徒が生き生きと学校生活に取り組んでいるのか、ワクワクする授業を受けることができているかなどの大きな指標として捉えたいと考えている。その数値を基に授業や学校全体の改善につながるように、町教委としても指導していく。

今後も、厚真の未来を語れる子の実現に向けて、学校と協働して、学習指導要領が示す資質・能力の確実な定着を図るとともに、自立して社会を生きていく基礎を育み、新しい時代を担える子どもの育成に取り組んでいく。